

JFEシステムズ／メルクネット導入事例

⑧



太陽化学

杉野淑子品質保証部主任

が、迅速で転記ミスもないと考えた。JFEはユーザー会と称して「システム改善の場」も提供する。「普段、競合するメーカーが問題を議論することで、品質保証面では仲間意識も生まれる。これまで

じなので転記も不要で、誤記のチェックも不要になった。最新の規格書をネット上で授受でき、煩雑な法令変更に伴い、独自対応が難しい場合も、メルクネットでもらった規格書をメルクリウスで全一元管理できる。サポートはJFEが1社で全て対応してくれ

想像以上に効果が高いことに驚いている。旧規格書入手では研究員を中心にメールでやりとりしていた。メルクネットに移行し品証が対応すると、リアルタイムで規格書のチェックができ、社内回覧もスムーズになった。紙と違い紛失の心配もなく関係者間で規格情報を共有でき、対応が早くなり社内の

換可能な対応を要望する。英語圏でも国によって添加物の表記や法律の言い回しで表現が微妙に異なることもあるが、「最初は標準的な変換からはじめてもやるべきだ」という。今後、国内製品を海外で売る場合に、現地の規制が分からないのは致命的だ。

は進むが、「小規模事業者はまだ独自書式が多い。将来的には項目を一定にした簡易版で対応したら、導入も加速するのではないかと期待する。」

企業へ提言

十分準備したが「実際導入すると想定外の問題が出てくる。将来を見据えた情報開示や部署間の役割を最後まで議論しルール作りをすべきだ」(杉野主任)。問題を棚上げしていた事項は社内的に早期対応し整理をしないと例外が浮き彫りになる。「メルクネットを活用するには嫌でも共通ルールで部門間の風通しを良くしないと、いけなくなる」という。

国内は少子高齢化で、胃袋の数が減る。食品企業も海外進出する時代に、メルクネットが英中など外国語変

「その他」の追加を要望する。

メルクネットの導入

メルクネットの導入

単一システムで原料を一元管理

太陽化学は、食品添加物をも扱う中間素材メーカーとして、仕様書提出や原料メーカーから規格書の収集を迅速・高精度化するため、統一書式収集サービ

式統一で、食品外の分野も含め単一システムですべての原料を一元管理するのが最大の課題だった。メルクネットでは、

2001年ごろ、アメリカに特化した、統合管理システム「メルクリウス」で管理するが、本来、化粧品や工業品は別システムでの管理が一般的だ。同社では、コストを抑え、1システムですべてを把握でき

けるようにした。工業品などに対応できることで、導入に二の足を踏んでいた中間素材メーカーでも用途拡大の可能性が期待できる。

変更の背景

運用の効果

今後の課題

おわり